

令和7年度も開催します！ 郷土館で懐かしの歌



あしりべつ郷土館（清田区清田1条2丁目、清田区民センター2階）は令和6年度、お楽しみイベント「郷土館で懐かしの歌」を隔月で計6回、郷土館内で開催しました。好評だったことから令和7年度も引き続き偶数月の第2木曜日に開催します。ご期待ください。

このイベントは、昔の道具類などが並ぶレトロな郷土館内で、郷土の歴史に触れたり、朗読を聴いたりしたうえで、懐かしい昭和歌謡や童謡・唱歌をみんなで歌う会です。令和7年度は懐かしのフォーク特集の回（8月14日）なども計画しています。

進行は、清田区の歌声ボランティア「ふれあいサポート」の園部真人さんで、園部さんの楽しいトークとともに送りいたします。

各回の内容は4月10日（郷土の歴史と懐かしの歌）、6月12日（朗読と歌）、8月14日（「時計台のある街」の浅沼修さんを迎えてコンサート&フォークを歌おう）、10月9日（朗読と歌）、12月11日（アコーディオン伴奏による青春の歌声喫茶）、2月12日（朗読と歌）の予定です。いずれも第2木曜日10時～11時30分の開催です。朗読は令和6年度に好評をいただいた朗読家の石橋玲さんをお迎えします。参加無料で、どなたでも参加できます。

問い合わせは、
ふれあいサポート（TEL 090-7656-3058）へ。



毎回、レトロな雰囲気の中で開催

公式ホームページで清田の 歴史を発信しています



あしりべつ郷土館は公式ホームページで「清田区の歴史」と「郷土館の活動」を積極的に発信しています。パソコンとスマホで手軽に見ることができます。ぜひ、ご活用ください。

公式ホームページの内容を簡単にご紹介します。目玉は「きよたのあゆみ」と「トピックス」です。

「きよたのあゆみ」は、清田区の郷土史を長年、調査研究している了寛紀明氏（あしりべつ郷土館運営企画委員）が執筆している郷土史レポートです。2025年3月時点で「きよたのあゆみ」は75本に達し、さらに毎月1本のペースで増えています。

これは、明治の開拓期から今日までの様々な郷土の歴史を掘り起こした独自の力作レポートです。他にはどこにもない貴重なもので、近年、郷土史研究者らから大変高い評価を得ています。

「トピックス」はあしりべつ郷土館の活動や動きを主に発信しています。小学生や大学生、社会人らの集団見学の様子や、郷土館の様々な取り組みなどを発信しています。

そのほか、「吉田用水路」跡や「札幌本道」を紹介した動画など、郷土史関係の動画もホームページから見るができます。また、年2回発行している「あしりべつ郷土館だより」もホームページで読むことができます。

ちょっと面白い企画として、「清田・今昔マップ」があります。昔の清田の地図を現在の地図と対比しながら見ることができ、昔の清田の川や道路などの姿が浮かび上がる興味深い地図です。トップページの「清田・今昔マップ」の表示をクリックすると見るができます。

あしりべつ郷土館公式ホームページは、地域の住民グループ「清田区ITボランティア」の協力を得て運営しています。

■ 郷土館ホームページ ■

郷土館の動きや清田区の歴史に関する新しい情報を発信しています。

<https://ashiribetsu-museum.com/>

郷土館のホームページ QRコード



清田区の歴史あれこれ（8）

昭和51年 厚別川の直線化工事

1. 昭和35年に厚別川「河川改修期成会」の発足

厚別川は蛇行の多い川で、治水工事以前には洪水の被害に常日頃より悩まされていました。

「とよひら物語 ～古老をたずねて～」(平成4年3月発行) 田中南三氏の談より抜粋

試行錯誤の米づくり

米づくりは、農民の至上の目標。厚別川を利用し、水田を開き、開拓民は稲作に取り組んだ。(中略)しかし、春、田植えを終えて、ホッとひと息ついたところへ厚別川が氾濫。せっかく植えた苗が流失し、田んぼは川原同然になってしまう。秋は、刈り取った稲が出水で流されて、部落総出で拾い集めた。こんなことが、昭和四十年くらいまで延々と続いた。厚別川の治水こそ七十年來の流域民の悲願だった。(以下省略)



<左の図は、大正5年(1916年)の国土地理院の地図です。>

河川の氾濫によって被害が大きかったとの回想がなされています。

そこで、昭和35年(1960年)に「河川改修期成会」が発足しました。北海道庁からは、『河川改修工事を行うにも、兩岸に雑木や竹笹が繁茂して川辺に近づくことすら困難で測量もままならない。』との連絡を受けて、地域住民が5か月かけて兩岸の樹木(ハンノキ等)の伐採を協力して行い、測量に漕ぎ付けました。

2. 厚別川の直線化工事

<左下の図は、昭和50年(1975年)の国土地理院の地図です。>

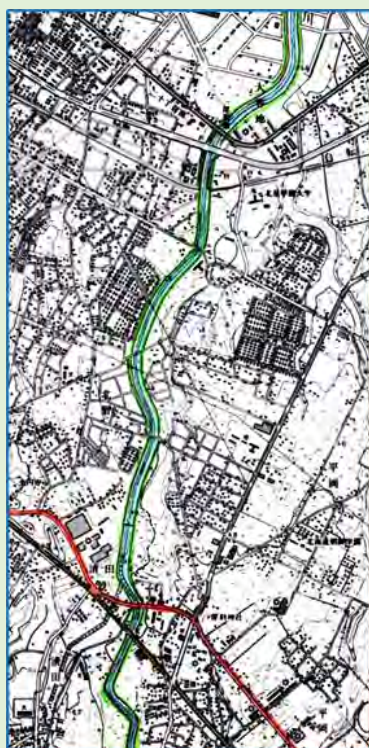
昭和38年(1963年)には部分改修の完成を見ています。その後も改修工事が続けられ、昭和43年(1968年)に、国道36号線までの改修工事(直線化)が行われました。昭和45年(1970年)の時点で、国道12号線までと真栄・有明地域の工事が概略完成しました。

清田地域については、直線の水路の浚渫(しゅんせつ)は終わっていましたが、築堤の完成は未だ工事途上のような状況でした。

最終的に河川・河道の整備や築堤が完成したのは、昭和51年(1976年)のことです。このようにして、ようやく厚別川の洪水による氾濫の危惧から解放される事となりました。

3. 厚別川直線化に伴う清田地域の変転

直線化と並行するように「新国道36号線(北野～里塚 間)」の工事が、昭和44年(1969年)頃より進められ、昭和46年(1971年)に開通しました。また、「真駒内御料線」の工事が昭和45年(1970年)頃より進められ、昭和48年(1973年)に清田周辺の道路が完工しています。そして、「トンネ川と清田川の合流」工事が昭和51年(1976年)に完成。「清田通」が昭和56年(1981年)に部分竣工し、昭和58年(1983年)には「北野通」の起工と続き、清田地域は純農村から住宅地へと変貌を遂げて行きました。(了 寛 紀 明)



清田区を通る国道36号のルーツ 札幌本道の変遷

清田区を通る国道36号は、明治6年(1873年)に造られた日本最初の西洋式馬車道である「札幌本道」(室蘭街道)を元とし、古くから清田の発展を支えてきました。

札幌本道(幅員7~13m)は、アメリカから招へいた開拓使顧問ケプロン「国を開くは道路の外なし」との提言に基づき造られました。全国から5000人を超す職工、人夫が集められ明治5年3月、函館から札幌に向かって無人の荒野を開削しました。

函館―森は陸路、森―室蘭は海路、室蘭―札幌が再び陸路という道でした。島松まで造成したところで雪の降る冬になり、いったん工事はストップ。翌明治6年雪解けとともに工事を再開し、清田を経て同年6月、終点の豊平橋まで完成しました。架けた橋は286基に及び、71人が亡くなったと言われています。

明治6年と言えば、清田に岩手県人の長岡重治が今の清田小学校付近に入植し、原始林を切り開き開拓を始めた頃です。初めに「道ありき」が清田の始まりだったわけですね。

札幌本道(札幌―室蘭―函館)は明治18年(1885年)、国道42号に指定されました。

しかし、その後、札幌本道は基幹連絡道路としての使命を終えてしまいます。明治40年(1907年)、国道42号は函館―長万部―倶知安―小樽―札幌にルート変更されたからです(今の国道5号)。一方、室蘭―苫小牧―岩見沢―旭川は国道43号になり、札幌本道のうち札幌―苫小牧は国道から外れ、県道になってしまいました。

これは、鉄道の発達により札幌―苫小牧―室蘭間の札幌本道の利用が減ったからです。小樽の隆盛もあったのでしょう。

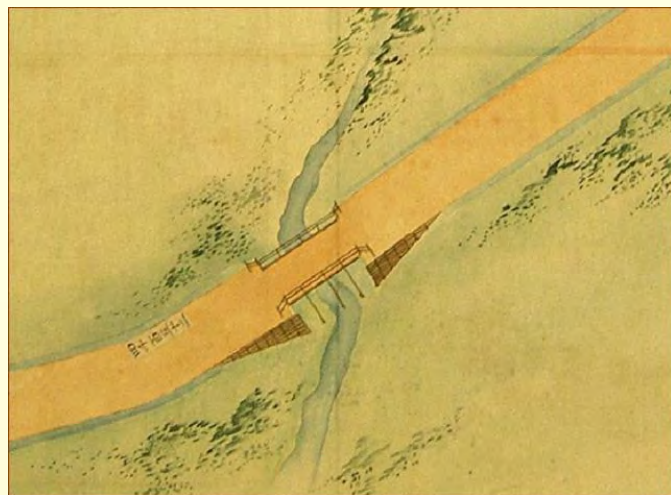
札幌本道が再び基幹道路として復活するのは昭和27年(1952年)です。札幌―室蘭間は一級国道36号となり、国道に再昇格しました。これは、戦後の千歳空港の拡張や羽田―千歳間の民間航空の開始、支笏湖の国立公園指定、札幌―千歳間のバス路線開始、千歳に駐留した連合軍の車両の増加などで重要性が高まったからです。

さらに翌昭和28年には、札幌―千歳間がアスファルト舗装され、「弾丸道路」と称されました。

その後、清田では昭和46年(1976年)、北野―里塚間の旧国道36号が直線化されて現在の国道に切り替えられました。元の道路(札幌本道=旧国道36号)は市道になり、今も「旧道」と呼ばれ地域の大事な道路として利用されているだけでなく、歴史遺産とも言えます。

平成23年(2011年)には、旧道の北野1条2丁目―清田1条1丁目間は、区民の公募で「あしりべつ桜並木通り」という愛称が付けられました。札幌本道の名残を残す「旧道」が、これだけ残っているのは清田地域以外多くありません。大事にしたいですね。

(川島 亨)



明治6年、札幌本道が開通した当時の絵図。今の清田小学校付近。中央の川は厚別川。=開拓使「新道出来形絵図」より



昭和30年頃の清田小学校前の旧国道36号(弾丸道路)



あしりべつ桜並木通りの石碑をはさんで
左に旧道、右に国道36号=北野1条2丁目

郷土館の展示品紹介

あしりべつ郷土館は、清田区の昔の暮らしが分かる生活道具や農機具、歴史が分かる写真や絵図などの資料をたくさん展示しています。それらの中からいくつかを今号から紹介していきます。

■明治7年頃の清田小学校付近の風景画

開拓使所属の画工、船越長善が描いた「札幌近郊の墨絵」(北海道大学植物園所蔵)の1枚。明治7年(1874年)頃の今の清田小学校付近の風景が鮮やかに描かれています。

今の清田小付近に建物が見えます。これは明治6年に建った休泊所(休息、宿泊する所)です。建物の前を明治6年に完成したわが国初の西洋式馬車道である札幌本道(函館―室蘭―札幌、今の「旧道」)が見えます。馬に乗った人が描かれています。右には厚別(あしりべつ)川と木製の厚別橋が描かれ、左端には清田緑地の丘が描かれています。



船越長善「札幌近郊の墨絵」。明治7年頃の清田が描かれている。

■角巻(かくまき)

東北、北海道の女性の冬の防寒着で、四角い形をした厚手の毛布の肩掛け。外出の時、三角に折って着ました。コートの普及で、昭和30年代ごろにはほとんど着られなくなったといえます。



角巻

平岡中央小学校の3年生児童117人 あしりべつ郷土館を集団見学

平岡中央小学校の3年生児童117人が1月28日(火)、あしりべつ郷土館を訪れました。郷土館スタッフ(元小学校長)から、展示している昔の農機具や生活道具の説明を受け、清田区の歴史と昔の人たちの暮らしを学習しました。



利用案内

- 開館日
水曜日・土曜日(10時~16時)
- 入館料 無料
- 場所
札幌市清田区清田1条2丁目 5-35
清田区民センター2階
- 運営主体
清田区内の町内会連合会で作る運営委員会(区民による自主運営)

今年も7段飾りのひな人形を展示

今年も3月のひな祭りに合わせて、7段飾りのひな人形を館内に展示しました。このひな人形は2023年5月、北野の高齢女性から寄贈されたものです。近年は7段飾りのひな人形は珍しくなってきました。豪華で華麗な7段飾り、一足早く春を感じさせてくれました。



7段飾りのひな人形

寄贈資料

資料のご寄贈、ありがとうございます。

- 永山伸治氏 林嘉男「ふたつの駅通」など
- アイヌ民族文化財団「アットウシと太布 系がつなぐ文化」
- 了寛紀明氏 郷土史研究レポート「清田発掘」
- 田山修三氏「開拓判官 島義勇150年顕彰祭絵馬」

アクセス・マップ



中央バス「清田小学校」から約520m